



日経225先物・オプションの取引ルールが変わる！

～重要な変更ポイント～

大阪証券取引所

Point 1 引けの取引の変更

ザラバ取引は15時10分まで

日中取引では15時10分に、ザラバでの取引が終了します。

5分間のプレ・クロージング

ザラバ取引の終了後5分間、注文のみを受け付けマッチングは行わないプレ・クロージングを設けます。

引成/引指/不成といった引け条件付き注文がなくなります。

大引けは15時15分

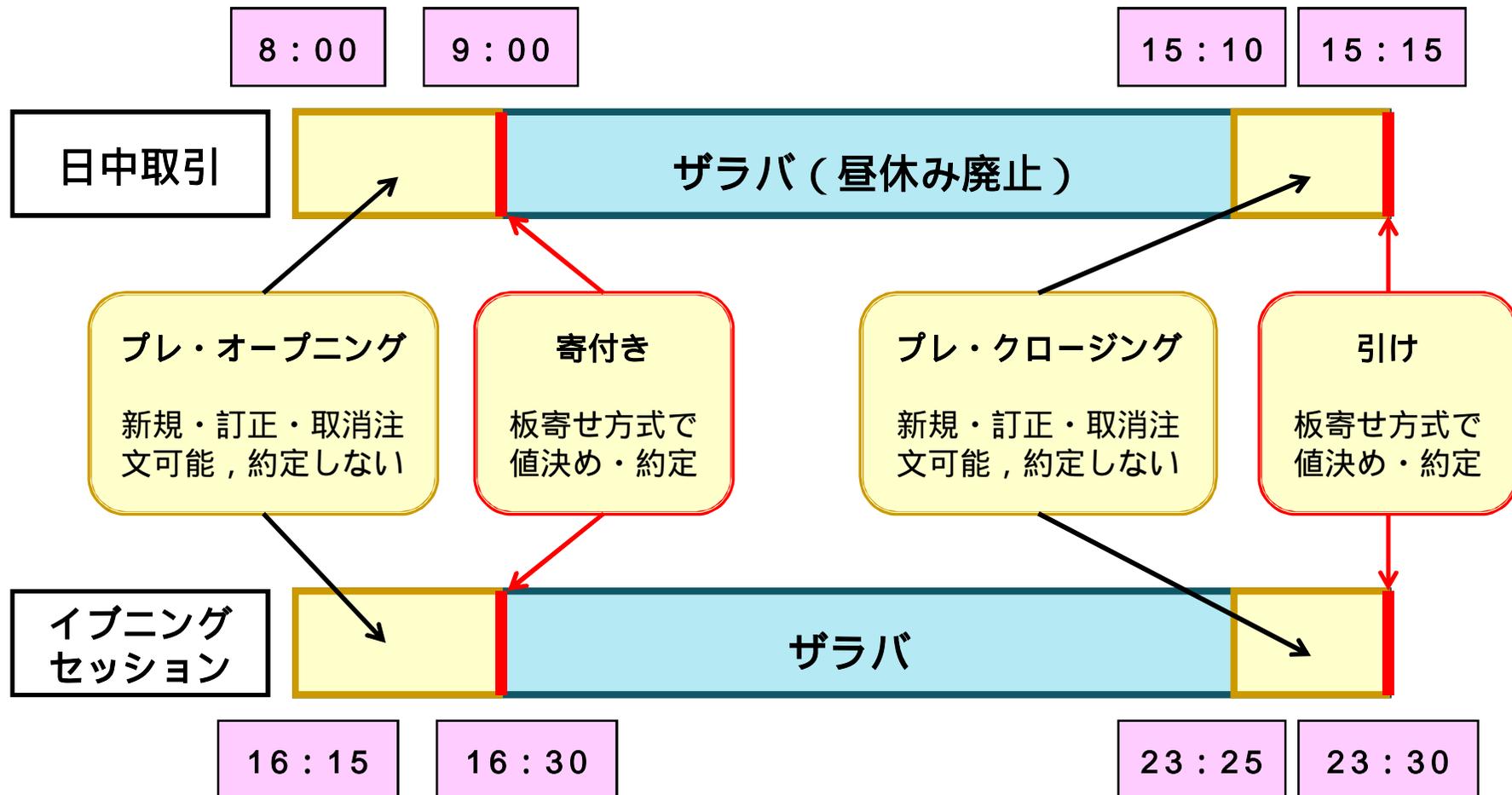
プレ・クロージングでの注文とザラバで約定せずに残った注文を合わせて、15時15分に引けの板寄せを行います。

引けの板寄せでは、直前のザラバでの約定値段から終値成立値幅を超える場合、取引が成立しません。

商品	終値成立値幅
日経225先物	上下0.8%
日経225オプション	上下10ティック

<取引時間のスケジュール>

株などの現物取引は変更しません。



Point2 寄付きの取引の変更

板寄せ前の注文も時間優先に

変更前は、板寄せ前に発注された注文に発注時間での優先はありませんでしたが、変更後は、板寄せ前でも時間優先が適用されます。

制限値幅内なら即時に値が付く

「特別気配」や「注意気配」が廃止され、下表の制限値幅の比率から算出される実際の値幅の範囲内であれば、即時に板寄せされるようになります。

	通常時制限値幅の算出比率	実際の値幅(2011/2/14~2/28)
日経225先物	上下8%	760円
日経225オプション	上下13%	1,240円

成行注文の振る舞いが変わる

変更前は、成行注文の場合、板寄せで値段が決まるとその値段で全数約定になっていたが、変更後は全数約定が絶対の要件ではなくなります。

【ご注意】

- ✓寄付きの板寄せ等で成行注文の一部が未約定になることがあります。
- ✓未約定の注文は失効し、ザラバの取引に移行します。
- ✓寄付きの板寄せ等で取引が成立しない場合でも、ザラバの取引に移行します。

<板寄せの事例>

売累計 (A)	売数量	値段	買数量	買累計 (B)
	1000	成 行	300	
		.		
1500		10050		300
1500		10040	100	400
1500		10030	200	600
1500	250	10020	300	900
1250	250	10010		900
1000		10000		900
		.		

約定数量	A-B
300	1200
400	1100
600	900
900	600
900	350
900	100

指値がある

約定数量が最大

売累計と買累計の差が最小



売累計 (A)	売数量	値段	買数量	買累計 (B)
		成 行		
		.		
		10050		
		10040		
		10030		
	250	10020		
	250	10010		
		10000		
		.		

10010円で900単位約定
 売りの成行注文のうち100単位が失効(板寄せにより約定しなかった注文は執行します。)
 ザラバ取引に移行

Point3 ザラバの取引の変更

即時約定可能値幅の導入

誤発注などによる価格急変を防止するために、直前の約定値段から一定の値幅を超えた値段となる注文が発注された場合、下表の即時約定可能値幅の範囲内で対当できる数量を約定させたいうえで、取引を1分間中断します。

商品	即時約定可能値幅
日経225先物取引	上下0.8%
日経225オプション取引	上下10ティック

即時約定可能値幅は、終値成立値幅と同じです。

1分間の中断後の取引再開時の板寄せでは、寄付きと同様に呼値の制限値幅の範囲内であれば、即時に取引が成立します。

<即時約定可能値幅の適用事例>

即時約定可能値幅

売数量	値段	買数量
	.	
	10080	
15	10070	20
5	10060	
5	10050	
	10040	
	10030	
	10020	
	10010	
	10000	
	.	

現値10000円,
即時約定可能値幅60円
10070円の指値注文

売数量	値段	買数量
	.	
	10080	
15	10070	10
	10060	
	10050	
	10040	
	10030	
	10020	
	10010	
	10000	
	.	

10050円で5単位約定
10060円で5単位約定

1分間の取引中断

売数量	値段	買数量
	.	
	10080	
5	10070	
	10060	
	10050	
	10040	
	10030	
	10020	
	10010	
	10000	
	.	

1分間の取引中断後

10070円で10単位約定

Point4 値幅制限制度の変更

呼値の制限値幅の変更

通常時の制限値幅を従来の半分程度の水準に縮小し，値幅の上限（下限）を付けると，サーキット・ブレーカー（15分間の一時中断）を発動します。

サーキット・ブレーカー発動中に，制限値幅を拡大し，1取引日中に2段階で拡大するようにします。

【制限値幅の算出比率】

	通常制限値幅	第一次拡大値幅	第二次拡大値幅
日経225先物	8%	12%	16%
日経225オプション	13%	17%	21%

【実際の値幅：2011/2/14～2/28】

	通常制限値幅	第一次拡大値幅	第二次拡大値幅
日経225先物	760円	1,150円	1,530円
日経225オプション	1,240円	1,630円	2,010円

サーキット・ブレーカー制度の変更

加熱した相場を安定させるために，取引を一時中断するサーキット・ブレーカー制度は，ラージの直近限月を発動の基準として，全先物・オプションを中断の対象とします。

Point5 商品性の見直し

日経225miniのマンスリー限月の追加

これまでの限月（3月，6月，9月，12月の限月の直近2つ）に加えて，マンスリー限月（3の倍数の月以外の直近3つ）を追加します。

【設定例：4月1日現在の場合】

1	4月限	追加されたマンスリー限月
2	5月限	追加されたマンスリー限月
3	6月限	
4	7月限	追加されたマンスリー限月
5	9月限	

オプションの呼値の変更

プレミアム50円以下を1円刻みに変更します。

変更後		変更前	
50円以下	1円	20円以下	1円
50円超 1,000円以下	5円	20円超 1,000円以下	5円
1,000円超	10円	1,000円超	10円

Point6 注文種類の拡充

注文種類

指値注文，成行注文に加えて，最良指値注文及びストップ注文を導入します。

注文種類	概要
最良指値注文	価格の限度を指定せずに発注し，最良の売呼値又は買呼値と対当する指値注文。
ストップ注文	発注時に指定した板登録条件を満たしたときに，発注時に指定していた条件で板登録される注文。

【ご注意】

指値から成行への訂正といった異なる注文種類での訂正はできなくなります。注文を変更する場合には，指値注文を取消し，新たに成行注文を発注し直す必要があります。

注文条件

執行数量条件・有効期間条件を注文に不可できるようになります。

注文条件		概要
執行数量	Fill and Store (FAS)	一部約定後に未約定が残る場合には，当該残数量を有効とする
	Fill and Kill (FAK)	一部約定後に未約定が残る場合には，当該残数量を失効させる
	Fill or Kill (FOK)	全数量が約定しない場合には，当該全数量を失効させる
有効期間	Good for Day (GFD)	当日の日中取引（イブニング・セッション）中のみ有効とする
	Good till Date (GTD)	指定した期間が満了する日の日中取引終了まで有効とする

<最良指値注文の事例>

(例) 最良指値注文で30単位の買いを発注した場合

<ケース1>

売数量	値段	買数量
	.	
	10030	
	10020	
20	10010	30
	10000	50
	9990	
	9980	
	.	

反対サイドの最良売気配



10010円で買い30単位の指値注文

<ケース2>

売数量	値段	買数量
	.	
	10030	
	10020	
	10010	30
	10000	50
	9990	
	9980	
	.	

同サイドの最良買気配より1ティック優先



10010円で買い30単位の指値注文

<ケース3>

売数量	値段	買数量
	.	
	10030	
	10020	
	10010	
	10000	
	9990	
	9980	
	.	

発注エラー
(注文が失効)

最良指値注文はザラバしか発注できません。

本資料は、株価指数先物・オプション取引の制度見直しの概要説明を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

株式会社大阪証券取引所は、本資料の記載内容については万全を期しておりますが、お客様が本資料の記載内容に基づいて行われる取引その他の行為及びその結果について、何ら責任を負うものではありません。

本資料は著作権法によって保護されており、株式会社大阪証券取引所に無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。